

ドラマの中の小児の薬

最近、薬業界、薬剤師主役、それも美人な女優さんのドラマが放映され、うれしく思っていました。

さて、その中に、小児の薬についての出来事がありました。

- ①のみにくい薬を子どもに何とかのませようと考えた方法が、もっと不味くてのみにくくなっていた。
- ②自分と子どもの症状が似ているので、自分がのんでいる薬を子どもに勝手にのませていた。

どちらも、親はよかれと思って子どもにしていたことですが、子どもにとってはよくなかったり、大変危険なことでした。

にがい～
もうヤダ!



②嫌がって飲まないときは薬剤師に相談を!

①に登場する薬は、小児がのみやすいように甘みと香りでコーティングされた顆粒剤でした。水などの中性の飲料などでのんでもらう分には、コーティングははがれないのですが、酸性の飲料、例えばオレンジジュースやコーラなどに溶かしたりすると、コーティングがはがれて、とても苦くなってしまった例でした。ただ、このコーティングは、製薬メーカーがのみやすくなるように工夫したもので、薬によって味や香り、溶けやすさ、何で混ぜてもいいのかが違います。ドラマの中では、チョコレート味のアイスクリームもしくは、薬を飲みやすくする専用の補助剤に混ぜることを提案していました。子どもが嫌がってのまない場合などは、ぜひ薬剤師に具体的にどう困っているのか相談して欲しいと思いました。

②処方薬を他人にあげることは絶対にダメ!

②については、処方された薬でやってはいけないことの代表格です。主治医はその人が改善するよう薬の種類や量、飲み方を決めて処方しています。たとえ症状が似ていても、病気や人が違えば、毒にもなるのが薬です。処方薬を他人にあげることは、絶対にいけません。ましてや、小児は大人と体の発達具合が違います。もし安易に薬をあげたばっかりに自分の子に取り返しの付かない副作用が出てしまったら、後悔のしようがありません。

薬のことでしたら、是非かかりつけの薬剤師を作っていただき、相談してみてください。きつといいヒントや提案がもらえらると思います。

ママもこれで
治ったのよ!



薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会

〒500-8146 岐阜市九重町4-5

<http://www.gifuyaku.or.jp>

岐阜県薬剤師会

検索